

千葉大学医学部附属病院で脊椎後方手術を受けられた 患者の皆様、ご家族の皆様へ

2026 年 7 月 23 日

麻酔・疼痛・緩和医療科

麻酔・疼痛・緩和医療科では、「脊椎後方手術における手術中の呼吸管理と術中出血量の関連」に関する研究を行っており、以下に示す方の診療情報等を、本文書の公開日以降に利用させていただきます。研究内容の詳細を知りたい方、研究に情報を利用して欲しくない方は、末尾の相談窓口にご連絡ください。

本文書の対象となる方

2020 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日の間に脊椎後方手術を受けた方

1. 研究課題名

「脊椎後方手術における呼吸器設定が術中出血量に与える影響についての後方視的研究」

2. 研究期間

2026 年承認日～2028 年 3 月 31 日

この研究は、千葉大学医学部附属病院観察研究倫理審査委員会の承認を受け、病院長の許可を受けて実施するものです。

3. 研究の目的・方法

全身麻酔では人工呼吸を行います。陽圧換気となるために静脈還流量が低下し、静脈性出血を助長することが知られています。特にうつぶせで行う脊椎手術では、体位の影響でも静脈還流量が低下することが分かっており、静脈性出血が問題となることがあります。

人工呼吸器の設定の中で、呼気終末陽圧（PEEP）と最高気道内圧（Ppeak）は胸腔内圧に影響する重要な指標です。PEEP は、息を吐き終わったあとに肺がしぼみすぎないように人工呼吸器が圧力を残しておく設定です。最高気道内圧は、人工呼吸器が息を送り込むとき

にかかる最も高い圧力です。どちらも圧力が高いほど静脈の血液が心臓に戻りにくくなるため出血が増えやすくなる可能性があります。

今回、手術中のこれらの呼吸器設定（PEEP や Ppeak）の大小と出血量に関連があるかを調べます。過去に脊椎後方手術を行った症例の麻酔チャートから呼吸器設定や出血量などのデータを抽出し、解析します。

4. 研究に用いる情報の種類

手術時の麻酔チャートに記録されている血圧や呼吸器設定などの情報。

診療録に記載されている身長、体重、病歴、血液検査値、手術記録等。

5. 研究組織（情報を利用する者の範囲）

【研究機関名及び本学の研究責任者名】

研究機関：千葉大学医学部附属病院

研究責任者：麻酔・疼痛・緩和医療科 助教 登内 紗英子

6. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どなたのものかわからないように加工して、千葉大学医学部附属病院麻酔・疼痛・緩和医療科において厳重に管理します。研究結果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、個人が特定されない形で行われます。

本研究についてご希望があれば、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧する事ができますので、相談窓口までお申し出ください。個人情報の開示に係る手続きの詳細については、千葉大学のホームページをご参照ください。

（URL：<http://www.chiba-u.ac.jp/general/disclosure/security/privacy.html>）

7. 研究に関する相談窓口について

研究に情報を利用して欲しくない場合には、研究対象とせず、原則として研究結果の発表前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口までお申し出ください。情報の利用をご了承いただけない場合でも不利益が生じる事はありません。

その他本研究に関するご質問、ご相談等は、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

相談窓口

〒260－8677

千葉県千葉市中央区亥鼻 1-8-1

千葉大学医学部附属病院（病院長：大鳥 精司）

麻酔・疼痛・緩和医療科 助教 登内紗英子

043(222)7171 内線 6771